

ま ち づ く り 講 習 会

みどりとまちづくり
～訪れたいまちになるために～

まちづくり情報センターでは、まちづくりに関する講習会を開催しています。令和6年度第1回は、人口減少・少子高齢化が急速に進む中で、今後のまちづくり・地域づくりを進めていく上での視点について 池邊 このみ先生 にご講演いただきましたので、概要をご紹介します。

【講師】：池邊 このみ 氏



【講師プロフィール】

- ・千葉大学 グランドフェロー 社会構想大学院大学 教授
- ・国土審議会委員
- ・社会資本整備審議会(都市計画・土地政策・住宅・土地分科会・公共用地)各地で都市計画審議会、景観審議会委員を務める
- ・2023 年から地域プロジェクトマネージャ ー養成に携わり各地の地域活性化策を指導
- ・都市景観賞・緑の都市賞・都市公園コンクールなどの審査員を務める

「地域の魅力」の創出と発信

人口減少・少子高齢化時代により「定住人口」が増加しにくい地域を活性化するためには、地域資源の開発・活用や地域の魅力のPR、地域イベントの開催や地域住民との交流等によるコミュニティの強化等、地域を訪れる観光客「交流人口」の増加を図る取り組みが大切である。

加えて、近年はこうした地域づくりの担い手不足の課題への対応策として、変化を生み出す人材「関係人口」と呼ばれる地域外の人材を活用した取り組みにも注目が集まっている。

ポイント1：地域への好循環をもたらす「道の駅」

「道の駅」は単なる休憩場所・直売所・情報発信拠点にとどまらず、地域活性化や地域住民の福祉や健康等の視点をもって設置することで地域に活力を呼ぶ・雇用を創出するなど地域への好循環をもたらす。

主に「道の駅」は、観光客や通過交通をターゲットとした地域外から活力を呼ぶ「ゲートウェイ型」と、地域の元気を創ることを目的とした地域住民のための施設とする「地域拠点型」に分かれるが、「交流人口」を増やすためには、体験や宿泊を通して来訪者の滞在時間を増やす工夫やホスピタリティを高くする工夫が重要である。



宿泊施設を併設する「道の駅 うきは」(福岡県)



地域住民の健康支援施設と防災機能施設を併設する「道の駅むつざわつどいの郷」



「道の駅 なら歴史芸術文化村」は県内に不足が生じている宿泊施設をはじめ、本格的な文化財修復と展示を見学できる施設、産直野菜売り場や伝統工芸品の展示販売、観光案内所など、多様な施設が集まっている

ポイント2：まちづくりに多様な資金ポケット

国では、地域の魅力や価値の向上、地域活性化を図るための地域づくりの担い手不足といった地方圏の課題への対策として、「定住人口」「交流人口」でもない、地域と多様にかかわる「関係人口」に着目し、「関係人口」を外部から地域に呼び込み、地域独自の魅力や価値の向上、地域の発展や改善、地域活性化などに取り組む地方公共団体を支援する制度を導入している。

制度の1つである「地域プロジェクトマネージャー制度」は、地方自治体が地域活性化等プロジェクトを実施する際に不可欠となる外部専門人材、地域、行政、民間などの連携を、市町村が関係者間を橋渡ししつつプロジェクトをマネジメントできる「ブリッジ人材」を「地域プロジェクトマネージャー」として任用する制度で、「地域おこし協力隊」や「地域活性化企業人」等の地域活性化策とも連携している。

また、これらの制度は、地域振興や農業・漁業振興、地域経済振興や防災・減災など対応可能分野が多岐にわたるのも特徴の一つである。

財政難な時代だからこそ目的にあった支援制度を探し、活用することが大切である。

花や緑をブランディングするまちづくり

従来、「公園」や「みどり」からは樹木や緑地をイメージされてきたが、花や緑でブランディングされるまちが増えてきていることから、花を主役としたまちづくりにも注目が集まっている。

また、日本では2025年に福山市で「第20回 世界バラ会議福山大会」が、2027年には横浜市で「GREEN×EXPO 2027」（2027年国際園芸博覧会）と、どちらも世界規模の園芸博覧会が開催される。

ポイント1：コミュニティガーデンの効果

近年、コミュニティガーデンの取り組みは日本でも増加している。

江東区では、76団体、1,600人のボランティアが花壇づくりや手入れなどに勤しんでいる。

JR武蔵境駅では、JRとNPOが協働で取り組んだコミュニティガーデンにより景観上弊害のあった高架下が美しい景観を形成している。

コミュニティガーデンに取り組むことによりまちの景観が向上するだけでなく、花や植物を共に育てることでコミュニティの活性化や企業との協働も可能となる。

ポイント2：放棄地や谷津を美しく彩る

2017年に横浜市で開催された「全国都市緑化フェア」では、横浜になじみのない里山に美しい独自の花の景観を見出し、それまで生態系の保全地や農地との関係で捉えてきた里山のイメージを大きく変えたことで、市民の評価もたかくフェア後も続けられている。

また、横浜の「英連邦戦死者墓地」やドイツの「ガーデン墓地」等は、県内の放棄地や谷津を彩る事例として参考になるのではないかと考える。



■ JR武蔵境駅高架下コミュニティガーデン *写真提供：NPO birth



■ 経済効果をもたらす花の集客「羊山公園」芝桜まつり



■ 女性に人気の集まる「ガーデニング霊園」



■ ドイツの「ガーデン墓地」



■ 横浜の「全国都市緑化フェア」開催時に鮮やか花材に彩られた里山（SATOYAMA）

*写真：横浜市都市緑化フェア公式HP

※講習会の内容は、まちづくり情報センターHPで動画配信しています。ぜひ、ご視聴ください。(YouTube) 配信HPアドレス：<https://www.youtube.com/watch?v=SYU0vdnaA9Y>